

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 トキワ松学園中学校高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注 1}
☐ 中学校 ☒ 中高一貫^{※注 2} ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他 (例: 小中高一貫)

※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む

所在地 〒152-0003

東京都目黒区碑文谷 4-17-16

E-mail n_iwatani@tokiwamatsu.ac.jp (n と i の間はアンダーバー)

Website http://www.tokiwamatsu.ac.jp/

幼児児童生徒数 男子 0 名 女子 546 名 合計 546 名

幼児・児童・生徒の年齢 13 歳 ~ 18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

本校は、「鋼 (はがね) に一輪のすみれの花を添えて」を建学の精神とし、自立し、未来を切り拓く探究女子の育成を目標としている。そこで ESD を持続可能な社会の担い手を育成する手段の一つと捉え、ESD の実践を通して文化的背景の異なる人と協働し、知識を活用して諸問題の解決策を模索できる生徒の育成を目標とした。また実際の教育活動では協働的かつ主体的な課題解決型学習を多く取り入れている。

具体的には主に①国際理解に関わる活動、②環境学習、③世界遺産や地域の文化財等に関する学習を行った。

①国際理解に関わる活動では、英語科を中心として非英語圏のゲストを招き文化などを学ぶ International Hour を実施。中学では中学 1 年から 3 年まで段階的に国際理解を深める活動を発表活動を通じて行った。中 1 では自国の文化や世界遺産について理解を深め、中 2 では非英語圏のゲストにインタビューを行い、後日調べたことも含めた文化紹介、そして中 3 では他国での女性や子どもが置かれた状況と解決法を提案する発表活動を実施した。生徒の発達段階に応じて学習内容の深度と範囲を変えることで段階的に理解が深まっている。また国際交流部は目黒ユネスコ協会主催のユネスコ子ども祭りや、目黒区国際交流協会主催の国際交流フェスティバルで運営ボランティアを務めた。ユネスコ子ども祭りでは本校のユネスコ活動を紹介する機会もあり、地域の方々に教育内容を周知する好機となった。2011 年から続いているロシア大使館学校との交流では、同年代のロシア人生徒とスポーツや調理を通じて互いの文化を知り、隣国との絆を深める貴重な機会となった。

②環境活動では主に理科で学んだ知識を生かし、英語でさらにリサーチ活動を行い環境問題

の解決策を提案する発表活動を行った。また、責任ある消費者を育成するという目標の下、チョコレートやスナック菓子など生徒にとって身近な食品を取り上げ、その製造過程における問題点について学習した。さらには、eco-chef contest と題し、フードマイレージを意識した献立作りをゲームを通じて体験するなど、知識と実生活を結び付けた活動を行った。知識をただ得るだけでなく、それを実生活でどう生かし、環境問題の解決に地球市民の一員として貢献できるかを疑似体験した。高校の政治経済の授業では貿易ゲームを行い、授業で学んできた南北格差や自由貿易と保護貿易の違い、資源分配の不平等などを体感して理解を深めた。近い将来、実際の経済活動に参加することとなる生徒にとって世界貿易の実態を実感をもって理解する好機となった。

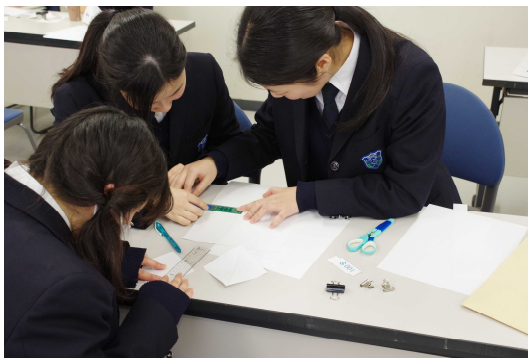
③世界遺産や地域の文化財等に関する学習では、①で述べたように国際理解の第1段階として国内の世界遺産を学ぶ活動を行っている。この活動は社会科と英語科が共同で取り組む教科横断型のプログラムである。また、おもてなしプロジェクトと題し、中3が都内近郊の観光名所を調べて、実際に浅草で外国人観光客に紹介をする活動を行い、母国の文化への理解を深めた。高校では修学旅行を軸に、平和学習も行っており、世界遺産である広島原爆ドームを見学した後は、戦争体験者の講話を聴く機会を持っている。今年度は被爆者の方ではなく、戦争孤児の方の話をお聞きし、改めて平和な社会に暮らすことへ感謝するとともに、その平和な社会を維持していくことの困難さ、そのために一人一人ができることを考えることができた。



①ユネスコ子ども祭りでのボランティア活動



①ロシア大使館学校との交流



② 貿易ゲーム、eco-chef contest の様子



③ 広島での戦争孤児の方の講話

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

使用教材抜粋

- ・『フード・マイレージ どこからくる？私たちの食べ物』（開発教育協会）
- ・『ワークショップで学ぶこれからの食育 お弁当屋さんゲーム 食のグローバリゼーションを考える』（開発教育協会）
- ・『おいしいチョコレートの真実』（ACE）
- ・『パーム油の話 ー地球にやさしいって何だろう？』（開発教育協会）
- ・『新・貿易ゲーム ～経済のグローバル化を考える～』（開発教育協会）
- ・NHK 高校講座 地理 飽食と飢餓の世界地理 ～さまざまな食糧問題～
- ・WFP 広報映像 <https://www.youtube.com/watch?v=jJavzxLpIFM>
- ・その他各種新聞記事など

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

「グローバルな視野を持ち、クリエイティブに問題解決をできる探究女子を育てる」という本校の教育ビジョンに基づき、全教科において疑問に思ったことを自分で調べ・考える、自分の意見を持ち、人に伝えることで新たな視点を発見するような活動を取り入れることになっている。そのため、従来より本校で行ってきた協働的で課題解決型の教育課程をさらに発展させて実施している。特に英語科が中心となり、国際理解学習、環境学習、世界遺産や地域の文化財等に関する学習を教科横断的に取り組んでいる。国際理解学習では、欧米偏重ではない国際感覚を生徒に見につけさせるため、非英語圏からのゲストとの交流を複数学年で実施するよう定めている。国際交流部も校内では国際理解学習を進める核となっている。環境学習では主に理科や家庭科で学習したことを発展させ、環境に配慮した責任ある消費者を育成できるよう、生徒にとって身近な食品をテーマにその製造過程の問題点などを学んでいる。世界遺産や地域の文化財等に関する学習では主に中3、高2の修学旅行を軸とし、社会科が中心となり指導内容を定めている。その他にも高二修学旅行では必ず平和学習の要素を入れて、誰もが平和で持続可能な社会に生きられるよう、そしてそのような社会の構築に貢献できる人材を育成するよう教育課程を定めている。毎年年度末に全教科の成果と課題を全教員が共有することで、教育内容の工夫改善に努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校内に国際交流推進部を設置し、各教科でSDGsの各分野にどのように取り組んでいるか把握し、教科横断型の活動の有無を把握するよう務めている。また、国際交流部が目黒ユネスコ協会および目黒区国際交流協会に団体加盟し、地域団体とも連携を取りながら地元の外国人居住者との交流を図っている。また、当部が中心となり不要子ども服回収キャンペーンや書き損じはがき回収キャンペーンを実施し、全校生徒が貢献できる活動を行っている。
国際交流推進部担当教員および国際交流部顧問は原則同じ教員が継続的に務め、各種活動が毎年当該学年や部員に確実に引き継がれるよう注視している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

年度末に生徒会活動を含めて、各校務分掌および教科の成果と課題の報告会を実施し、全教職員が情報を共有する。教科横断型の活動や、複数教科が共同で取り組む活動がある一方で、同様の内容の活動を複数教科が異なる時期に実施している事例もあり、この点に関しては、教科の枠を超えた協力体制が必要であるという課題が明確になった。次年度以降は各教科の諸活動を早い段階で全教職員が共有し、学年や教科の枠を超えて、共同で実施できる活動を増やしていくことが必要である。

⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）
※チェック事項 2-2 に対応

主に学校ウェブサイトのブログ「トキログ」や学校 Facebook 上で諸活動の紹介を発信している。また、11 月に行われる目黒ユネスコ協会主催の「ユネスコこども祭り」では国際交流部がユネスコスクール活動を紹介している。このような地域との連携がきっかけとなりトーゴ共和国への教育物資（ランドセル・文具等）寄付活動などが始まっている。また、ブログを見た台湾の新北市立福和國中学校から生徒・教員の学校訪問の希望があり 3 月に来校が実現した。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など）
（200字程度）
※チェック事項 2-3 に対

③で記載した通り、目黒ユネスコ協会および目黒区国際交流協会に国際交流部が団体加盟している。目黒ユネスコ協会との連携では、11 月の「ユネスコ子ども祭り」の運営ボランティアとして参加し、司会や受付などを担当した。また目黒ユネスコを通じて在日外国人ゲストを募集し、授業内外での国際理解書活動に協力してもらっている。2 月には目黒区国際交流協会主催の国際交流フェスティバルがあり、卒業生も含めて 40 名以上の生徒が運営ボランティアとして参加している。おもに子ども遊びコーナーを担当し、フェイスペイントや遊びコーナー、英語体験コーナーなどを運営している。フェスティバルでは地域のボランティアとも協力して活動している。また、ユニクロの「届けよう服のチカラ」プロジェクトに 2 年連続参加し、子ども服を集めて UNHCR に寄付しているが、併設の小学校や近隣の保育園・幼稚園にも協力を依頼し、2000 着以上の子ども服を寄付することができた。中高では子ども服を集めるのは困難なので、地域の協力を得られた良い例だった。文化祭では国際交流部が特定非営利団体 ACE を通じて購入した「チャイルドレーパーフリーチョコレート」を販売し、利益を寄付した。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項 2-4 に対応

残念ながらユネスコスクールとのネットワーク形成はすることができなかった。関係団体の協力も得ながら、ユネスコスクールとの交流の道を模索したい。

ユネスコスクールではないが、継続的に交流している学校は 2 校ある。ロシア大使館付属学校との交流は 2011 年に始まり 7 年目を迎えた。毎年 2 回互いの学校を行き来し、文化交流活動を行っている。スポーツや調理、工作など共に楽しめる活動を多く取り入れ、多少の言葉の壁があっても両校の生徒の絆を築くことができている。また、タイ・トラン県に派遣されている青年海外協力隊の方の協力を得て、ウィチェンマトウ学校で日本語を履修している生徒とスカイプを使って交流している。互いの文化の紹介をしたり、クイズを出し合うなど互いが楽しめる活動を生徒が中心となって企画・実施している。

3 月に来校した台湾の新北市立福和中学校は、来校したのが定期考査中だったため生徒交流ができずに残念だったが、今後機会があれば生徒同士の交流につなげていきたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

まだ十分ではないとはいえ、各教科が SDGs の考えも念頭に協働的で課題解決型の教育課程を編成するよう務めた。以前から各教科で協働活動を多くの授業で取り入れているので、生徒たちは自分とは個性や能力の異なるクラスメートと協力することを厭わない姿勢を有している。また、活動の成果を他者に伝えるプレゼンテーション活動の機会も多いため、コミュニケーション能力および言語操作力の向上が見られる。

また、国際交流部を中心として上述の通り地域の国際交流団体と継続的に連携しているため、地域では「国際交流といえばトキワ松」との評価を受け、国際フェスティバルや交流活動の際に参加を要請される存在となっている。

普段から授業内外で文化背景の異なる人との交流が多いこと、教員が交流国を選定する場合、意図的に生徒にとってなじみの薄い英語圏以外の国を選んでいることから、生徒たちは文化的差異に寛容な姿勢を持ち、また欧米偏重ではない国際感覚を身につけていると感じる。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

全教科がより一層 SDGs や ESD を意識した教育課程を編成し、教科横断型の学習プログラムを増やしていくために、また、全教員が他教科の学習内容を把握し、共同活動が促進できるよう、国際交流推進部が中心となりまずは各教科での SDGs および ESD に関わる活動の一覧を作成予定。その一覧を元に、共同活動ができそうな教科や活動内容を模索し、提案していく。

これまで継続的に行ってきた国際理解活動、環境活動などは、前年度の成果と課題を確認の上、更に活動を深化拡大できるよう関係教科と協力していく。

また、国内外のユネスコスクールとの連携も模索していきたい。